

第1章 序説

※教科書は「基礎日本語文法」

1

文法とは？

・時代と共に変わりゆく言葉を体系的に整理したもの

・
を持つ文を作るときに働く、一般的な法則

という言語の特徴



4

国語文法と日本語文法の違い

	国語文法	日本語文法
教える対象	を母語とする人	を母語とする人
教え方	を教える	文法体系を提示
文法用語	※資料参照	※資料参照



5

5

<文法の範囲>

音(おん)

音素

形態素

単語

文の成分

文

段落

文章

6

6

1

<文法の範囲>

音(おん)

音素: sak/a/ sak/e/

形態素: 「お」「坊」「さん」

単語: 形態素から構成される言語の単位
文節をさらに細かく分けた言葉

文の成分:

※文節:

8

<文の成分>

主語:

例) 彼が学校の友達です。 猫が鳴いている。

述語:

例) 彼が 学校の 友達です。 猫が 鳴いている。

12

12

修飾語:

・ : 名詞・代名詞を修飾

例) 青い空 彼が 学校の 友達です。

・ : 動詞・形容詞・形容動詞を修飾

例) 雨が とても 激しく 降っている。

13

13

接続語:

例) 自信がなかった。 だから、努力した。
疲れたから、早く 帰る。

独立語:

例) まあ、おどろいた。 はい、田中です。もしもし、田中さんですか。

14

14

2

<文法の範囲>つづき

文 : 句点で終わる(句点の数が文の数)

段落 : 長い文章を内容のまとまりから、いくつかに分けたもの

文章 : 複数の文を連ねて、まとめた内容を表したもの

16

16

文は単語に、単語は音に分けられる

⇒

「一次分節」= 分けられること

「二次分節」= 分けられること



by フランスの構造主義言語学者
アンドレ・マルティネ(1908-1999)

17

17

第2章 日本語文の基本構造

22

22

<述語文>

① 例) あの人が ミラーさんだ。

② 例) 富士山が きれいだ。

③ 例) アンナが ミラーに チョコを あげた。

23

23

格関係：

意味、わかりますか？

「セトウ スーラト アドラ サーラン 食べた。」

→

24

24

必須成分(必須補語)

※教科書P3では必須成分を「補足語」と呼んでいる

⇒

随意成分(随意補語) ⇒

「太郎が 花子と カフェで おいしい コーヒーを 飲んだ。」

補語：

27

27

<基本文型>

「 _____ が _____ を 食べる。」

必要最小限の組み合わせ ⇒

名詞文の文型

「 _____ が 【 _____ 】。」

例) あの人 **が** ミラーさんだ。

28

28

形容詞・形容動詞文の文型必須成分1つ 「 **が** [美しい、きれいだ] 。」2つ 「 **が** _____ [詳しい、親切だ] 。」「 **が** _____ [親しい] 。」「 **が** _____ [怖い、苦手だ] 。」

29

29

動詞文の文型

必須成分 **0項動詞** 「春めく、停電する、吹雪く」

1項動詞 「 **が** [降る、寝る、泣く]。 」

2項動詞 「 **が** _____ [食べる、読む] 」

「 **が** _____ [入る、話しかける]。 」

「 **が** _____ [結婚する]。 」

30

30

3項動詞

「 **が** _____ [あげる、くれる、もらう、渡す、教える]。 」

4項動詞

「 **が** _____ [運ぶ、移す]。 」

31

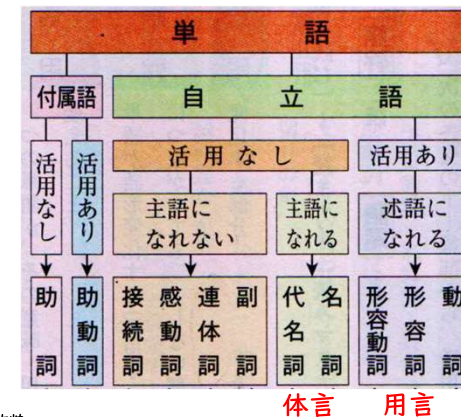
31

第3章 品詞論 名詞～接続詞

35

35

品詞分類 語を文法的な働きと形の変化によって分けたもの



「まとめ上手 国文法」より抜粋

36

36

5

:それだけで1つのまとまった意味を持っている語
文節の最初にあり、**1つの文節に1つだけ**

:その単語だけでは意味がわからない語
単独で文節になれない

見分け方⇒

37

37

名詞

38

38

<名詞とは> ・ものの名前

・「**が**」をつけると主語になる

<名詞の種類>

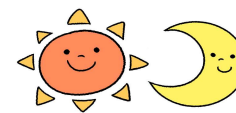
- ① :一般的な物事の名前
- ② :人名、地名など
- ③ :数量や順序を表す
- ④ :時を表す
- ⑤ :「こと・もの・とき・ところ・はず・うち」など

39

①普通名詞

- ・ 例) 家、学校、人間、動物
- ・ 例) 時間、感情、やる気

②固有名詞



普通名詞？ 固有名詞？

40

40

③数量名詞(数詞)

- ・ **数量**を表す ⇒ +
例) 1個、2枚、3杯、4匹
- ・ **順序**を表す ⇒
例) 第一、一番目、一枚目

41

④時詞



- ・ : **長さのある時間**を表す
例) 冬休み中・朝から晩まで
- ・ : **時間軸上の1点**を表す
例) 3時40分に授業が終わる。
先週、京都に行った。

43

43

時点詞

① : がつく
関係わない
例) 3時40分に 授業が終わる。

② : がつかない
によって、示す時が変わる
例) 先週、京都に行った。
昨日、駅で友達に会った。

44

44

時詞・数詞 ⇒

助詞をつけずに用言を修飾できる⇒

- 例) 「プリントを1枚、取ってください。」(数詞)
- 「先客が5人いた。」(数詞)
- 「先週、京都に行った。」(時詞)

46

46

⑤ 形式名詞(補助名詞)

⇒

例) インドへ 行ったこと がありますか。

若いとき、よく海外へ行きました。

・ **話者の気持ちを表す表現(モダリティ)**

例) ~はずだ。 ~わけだ。 ~ものだ。 ~ことだ。

※ 単独で使える名詞⇒

47

47

日本語教育能力検定試験 令和3年度 試験Ⅰ 問題Ⅰより抜粋

(6) 【名詞の場所性】

- 1 信号
- 2 電信柱
- 3 ガードレール
- 4 バス停
- 5 道路標識

48

48

<意味による名詞の分類>

- ・ : 例) 家、学校、駅、バス停
※
- ・ : 例) 先生 ※
- ・ : 例) ホワイトボード
- ・ **事態名詞** : 例) 仕事、火事
- ・ **時間名詞** : 例) 明日、来年、2時
- ・ **方向名詞** : 例) 右、左

50

50

<転成名詞>

⇒

が名詞になったもの

例) 考え、歩き、近く、古く

※ 例) 寒さ、大変さ、厚み、眠け

⇒ 形容詞や形容動詞の語幹(語基)に、
「さ、み、け」(接辞)がついてできた語、つまり

52

52

代名詞

56

56

一人称(自称)：わたし、ぼく

二人称(対称)：あなた、きみ

三人称(他称)：このかた、そのかた、あのかた

不定称：だれ、どなた



57

57

(これ、それ、あれ、どれ / ここ、そこ、あそこ、どこ)

①

- ・ 話しているとき、を直接指す
- ・ 話し手と聞き手が**対立**する場合としない場合がある

58

58

★聞き手と話し手が接近している(対立していない)場合



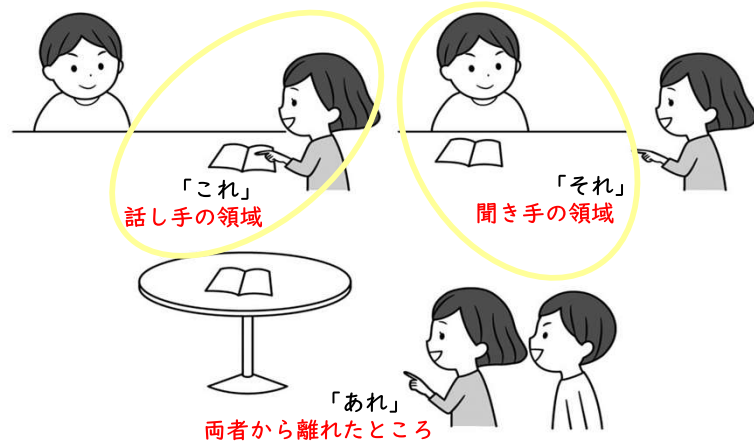
あそこのケーキも見ようよ
両者から離れたところ

59

59

9

★聞き手と話し手の間に、距離がある(対立している)場合



60

② : を指す

例) この間、とらやのどら焼き食べたんだけど、
これがおいしいんだよね。 ※

昨日、本屋に行ったら、そこでサイン会やっててさ、...

京都に行ったとき、あれ、食べたよね。おばんざい。 ※

62

62

<ダイクシス, deixis (直示)>

⇒

- ・ 例) ここはどこ?
- ・ 例) 私は明日ひまです。
- ・ 例) 明日、鎌倉に行く予定だ。
- ・ 例) 「ちょっと、お父さん!」

65

65

・ 移動直示の動詞

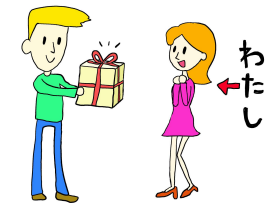
⇒

「行く」「来る」

(A) 明日、ミラーさんが私のところへ ○○。

(B) 明日、私がミラーさんのところへ ○○。

授受動詞「あげる」「もらう」「くれる」



66

10

日本語教育能力検定試験 令和2年度 試験Ⅰ 問題Ⅰより抜粋

(15) 【直示表現（ダイクシス）】

- 1 こちらは皆、毎日を元気に過ごしています。
- 2 後ほど折り返しお電話させていただきます。
- 3 駅まで歩いて、そこから電車に乗ります。
- 4 今週、会議が三つもあるんですよ。
- 5 私は川の向こう側に住んでいるんですよ。

71

71

連体詞

73

73

<連体詞の種類>

- ① 例) たった、たいした、とんだ(ことになった)
- ② 例) 大きな、色んな、おかしな
- ③
- ④ 例) この、その、あの、どの、かの、ほんの
- ⑤ 例) あらゆる、いわゆる、ある、来(きた)る8月1日

74

74

連体詞 ⇒

- ・ **形容動詞** との区別に注意

見分け方:

例) 静かな町⇒ 小さな花⇒

- ・ **助動詞「ようだ」、助詞「くらい、ほど」**に接続することがある

例) どのように致しますか。 このくらいの長さに切ってください。

75

75

11

副詞

78

副詞

⇒ 主に用言を修飾し、自立語で活用しない

<副詞の種類> ※山田孝雄による分類

- ①
- ②
- ③

79

① 状態の副詞 ⇒

・

例) ゆっくり、はっきり、こっそり



・

例) すやすや 🌊、きらきら ✨、ザーザー 🌧️、ワンワン 🐕

80

80

※

(整理ノートP32:副詞の体言用法)

例) 「しばらくの間」 「もっぱらの噂」



※

例) 「わざと転んでみせた。」

「あえて返信をしない。」



81

81

12

動きの時間的な局面を表す表現

※

例) もう、まだ (を表す)

「もう降ってきた。」 「発車までまだ15分ある。」

やがて、すぐに、ようやく

(を表す)

「帰宅して、すぐに勉強を始めた。」

82

82

② 程度の副詞 ⇒

・

例) 「ちょっと食べてみて。」

「明日はもっと早く起きよう。」

「かなり昔の話だ。」

「もっとゆっくり食べて。」

83

83

※程度の副詞も「の」がついて連体修飾語になることがある (整理ノートP32:副詞の体言用法)

例) いつものこと、たくさんの人

※ ⇒

例) 「だいたい1時間ぐらい」

「およそ100人が参加した。」

84

84

③ 陳述(呼応)の副詞

⇒ ・

・

例) 「たぶん来るだろう。」 「決してあきらめない。」

「どうか受かりますように。」 「まるで雪のようだ。」

「もし晴れたら出かけよう。」

87

87

日本語教育能力検定試験 令和元年度 試験Ⅲ 問題3より抜粋

※共起(コロケーション)

⇒ 文中である語が、特定の他の語とよく一緒に使われること

問3 文章中の下線部C「程度副詞が様態副詞と共起する」例として最も適当なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 どうかゆっくり進んでください。
- 2 かなりきっぱりと断ったんです。
- 3 けっこうすぐに勝敗が決まるでしょう。
- 4 だんだんほかほかしてきましたね。

89

89

日本語教育能力検定試験 平成29年度 試験Ⅰ 問題1より抜粋

(13) 【副詞の呼応】

- 1 いまだ失恋の傷が癒えない。
- 2 なぜ人は、人を愛するのだろうか。
- 3 もし病気ならば、見舞いに行こう。
- 4 どうぞよろしくお伝えください。
- 5 あいにく彼は来ないみたいです。

91

91

<副詞の種類> ※ 渡辺 実による分類(1971)

① の副詞 (に当たる)

⇒ 後続する部分を予告し誘導する機能がある

② の副詞

⇒ 話し手の評価(判断や主観)を表す

例: など

95

95

③ の副詞

⇒ ¡ (限定の意味を副える助詞)と対応している

例) 「せめて半額でも融通してもらえませんか。」

「おまけに次男まで戦争にとられてしまひまして....。」

96

96

感動詞

97

97

<感動詞(間投詞)>

⇒自立語で活用がなく、

<感動詞の種類>

- ① 例) あら、まあ、おお
- ② 例) はい、ええ、まあ
- ③ 例) もしもし、ねえ、おい
- ④ 例) おはよう、こんにちは
- ⑤ 例) よいしょ、えい

98

98

<分化文、未分化文>

分化文：

「あら!」「まあ、きれい!」「おい、そこの君。」「おはよう。」

「いたっ!」「あっ!」

⇒未分化文：

99

99

接続詞

101

101

<接続詞>

・自立語で活用がない

・

・語と語、文と文など、

例) 翻訳家または通訳者になりたい。

つまり、語学力が活かせる仕事に就きたい。

自信がなかった。だから、努力した。

102

102

<接続詞の種類>

① :例) だから、それで

② :例) しかし、けれども

③ :例) または、あるいは

④ :例) そして、また、さらに

⑤ :例) さて、ところで、では

⑥ :例) つまり、すなわち、たとえば

103

103